

(4) 主な事故別の未然防止のための留意事項

◇クマ出没

項目		留意事項
1	教職員の共通理解	<ul style="list-style-type: none"> ・危機管理マニュアルにクマ出没時の対応や役割分担等について記載し、教職員の共通理解を図る。 ・地域の実情に応じて、専門家等を講師としながら想定した危機管理に関する研修会（習性、遭遇時の対処方法等）を開催する。 ・クマが出没した際の対応や基本的な考え方について、児童生徒や保護者に周知するとともに、緊急連絡体制（一斉メール等）を確立する。 ・保護者等による送迎が難しく、危険が予想される場合は、登校させないこととし、オンラインを活用した授業を実施するなど、学習保障に十分配慮する。
2	警察等の関係機関との連携及び情報の早期把握	<ul style="list-style-type: none"> ・警察署、市町村関係部局との連絡体制を確立し、休日や夜間等も速やかに情報を把握できるようにする。
3	近隣の学校等との情報交換	<ul style="list-style-type: none"> ・クマの目撃の情報については、他校種を含む近隣の学校等や市町村教育委員会と相互に緊密な情報交換が行える体制を整える。
4	学校内外の安全確保	<ul style="list-style-type: none"> ・校舎内へクマが侵入できないよう施錠を徹底する。 ・PTAや地域住民等の協力を得ながら、学校敷地内や学校周辺、通学路等においてクマが近年出没した場所や潜伏しそうな場所を確認し、その結果を通学路安全マップ等に反映させるとともに、教職員、児童生徒、保護者、学校安全ボランティア等と共有する。 ・教職員による校内巡回体制の確立を図るとともに、児童生徒等の安全を常時確認する。
5	児童生徒への事前指導	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的なクマの習性やクマ鈴等の携行等を指導するとともに、不意の遭遇など緊急事態が発生した場合の対処方法などについて指導の徹底を図る（後述「※児童生徒への事前指導の内容例」参照）。 ・身近な大人への連絡、警察や学校等への連絡を指導する。 ・学校の実態に応じて、専門家によるクマ対応についての出前授業等を実施し、児童生徒の理解促進を図る。
6	校外での学習や学校行事における安全体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に綿密な計画を立てるとともに、現地の安全を十分確認する。十分な安全が確保できない場合は、延期または中止。 ・児童生徒等に対する事前の安全指導を十分行う。
7	クマを寄せつけない対応	<ul style="list-style-type: none"> ・朝・夕の大音量での放送や陸上競技用スタートピストル、爆竹、ロケット花火等による追い払い（近隣住民への説明と理解が必要）。 ・学校敷地内の草の刈り払い等。 (通学路については関係諸機関へ要請)

※児童生徒への事前指導の内容例

クマに遭わないようにするための対策

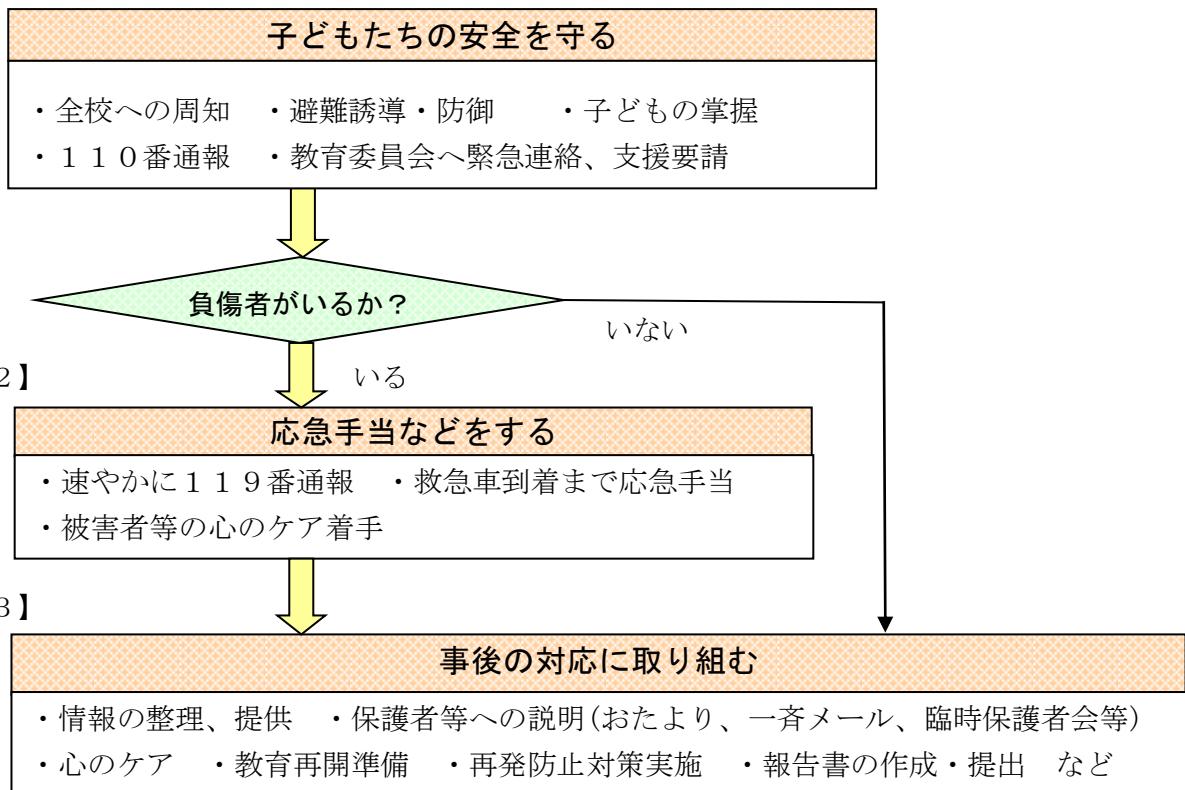
- ・クマ鈴の携行。
- ・クマが近くにいるサイン（足跡やふんなど）を見つけたら、その場を離れる。
- ・外出の際食べ物を持ち歩かない。
- ・集団で登下校するように心がける。

クマに遭遇した場合の対策

- ・遠くにクマがいることに気が付いた場合は、落ち着いて静かにその場から立ち去る。
- ・近くにクマがいることに気が付いた場合は、クマを見ながらゆっくり後退するなど、落ち着いてクマとの距離をとる。
- ・至近距離でクマと突発的に遭遇した場合は、クマによる直接攻撃など過激な反応が起きる可能性が高く、顔面・頭部が攻撃されることが多いため、両腕で顔面や頭部を覆い、直ちにうつぶせになるなどして重大な障害や致命的ダメージを最小限にとどめることが重要。
- ・親子連れのクマと遭遇した場合は母グマが攻撃行動をとることが多いため注意が必要。また、子グマが単独でいるような場合でもすぐ近くに母グマがいる可能性が高いため、速やかにその場から立ち去る。

(3) クマ侵入時（児童生徒在校時）

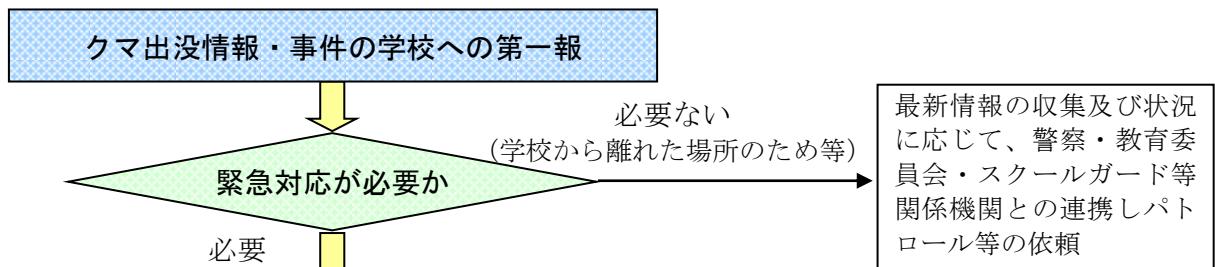
【対応 1】



◇クマ侵入時対応の留意事項

上記対応	留 意 事 項
【対応 1】	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒等の安全確保を最優先させる。 ・火災報知器、携帯用防犯ブザー等により緊急事態発生を知らせる。 ・学校における危機管理マニュアルなどに基づき、事態の把握、伝達、避難誘導、応急手当などの救援活動を行う。 ・管理職は、情報の集中化を図り明確な指示を行う。 ・教室等の扉の前に机等を置くことや、防火扉を有効に使う等の防御態勢を整える。
【対応 2】	<ul style="list-style-type: none"> ・クマの動向等、速やかに事態を把握し、校内放送等により、正確な情報を伝達する。 ・直ちにクマ侵入対策本部等を設置し、児童生徒等の安全確保を図るとともに、対応策について検討する。
【対応 3】	<ul style="list-style-type: none"> ・登下校方法の検討。 ・保護者への速やかな連絡（一斉メール等）。 ・クマの侵入経路等を解明の上、直ちに対策を講じる。

(4) クマ出没登下校時



登下校共通	<ul style="list-style-type: none"> ○ 職員の緊急招集、情報共有と対応協議 <ul style="list-style-type: none"> ・警察や行政機関以外から情報提供があった場合は110番通報。 ・児童生徒等の現在の状況を把握（登校中、下校中、登校前、帰宅後など）。 ○ 通学路の安全確保 <ul style="list-style-type: none"> ・クマが確保、処分されているか警察等に状況確認。 ・登下校中でクマに遭遇する危険が高い場合には車で現場に直行し、子どもの安全確保を図る。 ・教職員等による車での巡回や警察、スクールガード等への巡回協力要請。 ・保護者送迎を依頼する場合には、次の点を配慮。 <ul style="list-style-type: none"> ①登下校の時間帯 ②引き渡し場所や交通整理 ③スクールゾーンがある場合は、所轄の警察署に相談
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもの初期対応 <ul style="list-style-type: none"> ・【登校前】安全が確保されるまで自宅待機。 ・【登校中】子ども110番や商業施設等、最寄りの安全な屋内への避難。 ○ 臨時休業や教育課程の変更、登校手段について検討 <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の変更等、方針が決定したら、一斉メール等で連絡。 ・保護者等による送迎が難しく、危険が予想される場合は、登校させないこととし、オンラインを活用した授業を実施するなど、学習保障に十分配慮する。 ・その場合、校長判断により出席停止扱いとする。 ・臨時のスクールバス対応が必要な場合は設置者等に相談。

登校時	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもの初期対応 <ul style="list-style-type: none"> ・【登校前】安全が確保されるまで自宅待機。 ・【登校中】子ども110番や商業施設等、最寄りの安全な屋内への避難。 ○ 臨時休業や教育課程の変更、登校手段について検討 <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の変更等、方針が決定したら、一斉メール等で連絡。 ・保護者等による送迎が難しく、危険が予想される場合は、登校させないこととし、オンラインを活用した授業を実施するなど、学習保障に十分配慮する。 ・その場合、校長判断により出席停止扱いとする。 ・臨時のスクールバス対応が必要な場合は設置者等に相談。
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 子どもの初期対応 <ul style="list-style-type: none"> ・【下校前】安全が確保されるまで学校待機、下校手段の検討。 ・【下校中】子ども110番や商業施設等、最寄りの安全な屋内への避難。 ・【帰宅後】外出しない・させない。

継続対応	<ul style="list-style-type: none"> ・最新情報の整理と提供。 ・翌日以降の登下校方法等、保護者に一斉メール等で連絡。 ・不安を抱える子どもの確認と心のケアの実施。 ・安全指導の再確認・繰り返し指導。 ・教育再開準備。